(1) (4	号)	· ····	入音	季 町	公	民	舍官 幸	the second s	昭和2	9年12)	月1日発行
みて水力発行のために雪ど 水温については、受不の 水温については、受不の 水温については、受不の 水温については、受不の 水温については、受不の 大一、二度であり、又、字 不のの繊川原発電所の大蔵への抜水 のでの繊川に見てあり、又、字 の変が二度ももがう点から の支が二度ももがう点から の支援してもいた雪ど	▼調査・運転の用がして、単産の解決	いたまで、 した、 した、 した、 した、 した、 した、 した、 した	1砂質土でしかも耕土が浅いから客土して深くせね。 ばならない。		意慾も起らない狀態である「が精一ぱいであつて、営農下げてもらつても飯米確保である。どんなに供米率を	無類の冷水灌漑の単作地帯耕土地帯である上に、天下耕土地帯である上に、天下		が実施されるよ	農民 諸 君	流水客十	
こと* る冷水害により一町歩の田 ないた客により一町歩の田 たい一割に当る水口の収穫 作に二万宿ので、六千町歩 増収に広石の空、六千町歩 増収に万宿支では、1000000000000000000000000000000000000	2その方法は、天年れの訪れていた。	ミ申む ある ● に	★とり留下で、長本にお、 を決めていた。 を表するに、地元出身鍛冶代 を表するに、 を表するに、 を表するの代表者一行 を表するの代表者一行				用なりまたの店を 転のた。 したのた現川崎総務 が県に陳情し、当時の農	この調査の結果を提えで ことがわかつた。 である	黒部川冷水地帯土地改良事務所理事長袖民諸君の理解と奮起を望む	問題につい	
		七百町歩、左岸方, 歩の実施を予定している。 濁りの迷惑を考えて客土	またの「大和及び客土用が敷け で四百六十町步、二十九年 で四百六十町步、二十九年 で四百六十町歩、二十九年	スペンシート に、 二十町步、宮野山に五町歩 に、 二十町步、宮野山に五町歩 を 二十町少、宮野山に五町歩 の 着工を手はじめに、二十 一十 二十 二十 二十 二十 二十 二十 二十 二十 二十 二	▼客土の実施とその状況 第一年(二十六年)は下 なりしたのである。	円の予算を獲得することにて、その第一年六百四十万万円の五ケ年計画事業とし			野 與 太 郎	τ	発行所 入善町中央公民館 編集費任者船平源蔵 印刷所 田中印刷所
写真は若栗地内の答土 (泥水が流れている)						なかろうか。元々、この地は休めてはならないのでは一耕土の補給、土地改良の手耕土の補給、土地改良の手	「事は三十年度で完		「影響があるのです。」	100 Mar 100 Mar	でやっている。 でやっている。 ででやっている。 ででやっている。 での時間を短縮するため二十 での時間を短縮するため二十 での時間を短縮するため二十 での時間を短縮するため二十 での時間を短縮するため二十
十一月十五日午後一時完 十一月十五日午後一時完 上田、青島、神林、田中 上田、青島、神林、田中		の留起を希望して止まない。	は掘り取つけ	した土地を碎く様		してあるのである。	ころと用ん攻迫は昔りとげていたと思いな力量を支出させて継続して行社に交渉して、会社から経社に交渉して、会社から経	考えでは、この間のなして、	555。(今回D氘Kを上ま 問題として残されるわけで で、この対策としての流水		も、我々住民は天よりのお のである)耕土を良くして のである)耕土を良くして のである)耕土を良くして のである)耕土を良くして のである)耕土を良くして
自菜…大井武成 し真…吉 町農協連会長賃買す 転、大豆…高田先年、白菜…吉 重義の十氏。 「「「「「「「「」」」」」 「「「」」」」 「」」 「」」 「」」 「」」	県 知 三 第 五 七 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	や充実し顔る広、中 の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の	 〃 三二二 中瀬佐之松 〃 三二〇 中山 文作 		はいかの通り し、 ないなの し、 の で の の は い の の の の 成 り 、 で れ た 。 そ の 反 当 換 算量の成 し 、 で れ た 。 で れ た 。 そ の 成 り 当 換 算量の成	育奮所三平の刈取りをした 育奮所三平の刈取りをした るられて來たが、この程審	作会は非常な関心を持たれ 000000 ご 二 十 八名の申込者 こ の 競	■000000000000000000000000000000000000	じた。	いての講演や映画鑑賞など、治氏の公民舘のあり方につ尚、県社会教育主事米田順	→長期一「上勤第四」、市勤 市、木根、目川、下飯野 市、木根、目川、下飯野 市、木根、「二、下飯野 市」、木根、「二、「「 一」、「「」」、「「」」、「 「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「 「」」、「」」、
これによいたいと語られた。 したなり、これによって、明るい見、 にれたようと、明るい見、 が認めてもらえると電話数が が認めてもらえると電話数が が認めてもらえると電話数 が認めてもらえると電話数 が認めてもらえると電話数 が認めてもらえると電話数 にのるい見、 で、未訳博士によって、明年に見、 たいと話のしたいと語られた。	「が認められるころ」	機会にその陳情 し、先赤合すの の 中 一 月 二 十 二 日 こ し み を の 陳 情 一 男 二 十 二 日 こ し み る す る り の し し み を ら の し し み を ら の し し み を ら の し の ら の ら の し し う ら ら の ら の ら の し し う ら ら の ら の ら の ら の ら の ら の ら の う し う ら の ら の ち の う し う ら ら の ら の う の ら の ら の う ら の ら の う つ う の う の う う の う の う の う の う の う つ う の う つ う の う つ う の う の う う の う つ ら つ う の う の う の う つ う の う つ う の う つ う の う つ う つ う つ う の う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ う つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	析是、吉奇阿祁更奇〇道	2.1. 点線 園 表 彰	TH)をクラブのため、 HAND、健康 HERT、手 HAND、健康 HERT、手		 ▲ 1明せきな頭脳 2忠実 1明せきな頭脳 2忠実 	仕事は必ず計画的に、計 時つておごらず負けてく らず。	▲ C ***** + H クラブのスロー ガン あなたの最善を示せ。		公 民資料 今から四十年前アメリカ で世報意見とすめたちりカ
述べられた。 多力すないかえよう、現在の受本堰堤下 たず、現在の受本堰堤下 たす、現在の受本堰堤下 たっ、映信働店を充分で 現本などの秋郎、中沢小坊 がして、 がすりたいかるよう 分力するよう 分力するよう 分力するよう がして、 がして、 のためで、 のたのでのでのでので、 のたので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでので、 のでのでので、 のでのでのでので、 のでのでのでので、 のでのでのでので、 のでので、 のでので、 のでのでのでの	十四日農林省から佐々木、	防止策として、愛本堰堤下 時止策として、愛本堰堤下 は、市・市・市・市・市・市・市・市・市・市・市・市・市・市・市・市・市・市・市・	在に進らていたが、こした で問題になり、より~く調 が起ったりするの するの	豊林省から視察に	少年4日クラブ 指導育成の任に当つて、 少年4日クラブ 指導育成の任に当つて、 二七〇名の日	C 天然賞源を愛護し、社	く。中に强く生きて行つけ、移り変りの早い	B丈夫な体をつくる訓練 のために責任を分担す のために責任を分担す	A多くの友達と共に働き	▲クラブ活動の目標	
ですが、一向に下らなかって、 なかって、 なかって、 ながたくした。 ですが、 した。 ですが、 した。 ながたらたまました。 なかった。 なかった。 なかった。 なかった。 なかった。 なからしていたが、 ないと、 ないと、 ないし、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない、 ない	私は、町税を納められなみがえらせています。 ながえらせています。 よりのお経をあげてお参り	寝と者 あろうなが そうは、 たか、 たか、 たか、 たか、 たか、 たか、 たか、 たか、 たか、 たか	さえて行く為一生懸命励ん供い母として夫亡き後をさって行く為一生懸命励んで、私は姑いと二人の子でき後をさけた一人でこの度町民税惡質滞納者	て	い所回ころが昌	現在のところ41クラブなつてもらつている。 残し、団員のリーダー格とのものを研究クラブとして	入善町では二十七才以上 附 記	実践する。例えば、新品などで立証されたものをなどで立証されたものを	▲クラブ活動の内容 農業改善、生活改善に役	▲経費、奉仕事業の收益でまかのうのが本体で	 一 O 才 (二 O 才 (一 Q 校)) イ H クラブ と 4 H クラブ と 4 H クラブ と 4 H クラブ と 4 H クラブ く 4 H クラブ く 4 H クラブ く 4 H クラブ と 4 H クラブ く 4 H クラブ と 4 H クラブ く 4 H クラブ と 4 H クラブ (婦人) 部落単位で三、四十名で
のと思われる。 のと思われる。 のと思われる。 のと思われる。	、第二十二四十元二百十二二百十二二百十二二百十二二百十二二四十二二二二十二二二二二二二二二二	 1) 印 1) 日 <	去界品に、善材童子が丘十一という義をば華厳経の入 ーという義をば華厳経の入 であるのなきも、「人善	- ま界に音入することゆえ、 く仏教にては入善とは真知 教の説なるも(中略)最極	益する業が善なることは一 寛余も有之(中略)世を利 三の善なることは一	見あたらず候(中略)善を 「入善という文は佛語に	査をは願いしたところ、次 町山大学長金山穆詔師に調 市たるかど	了名由來	(3)	のとする説である。下新川のとする説である。下新川のとする説である。下新川のとする説である。下新川のとする説である。下新川	でお頭いしまで、 「たちになるない」では、 ないので、 でお頭いしまの正した利益 でのしたのはまで、 で、 ないので、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、

